



タンチョウ
コミュニティ

秋、刈り取りの終わった牧草地で餌をついばむタンチョウ



鶴居村にはタンチョウの給餌場が2カ所ある



上=牛乳を使ったデザート作りに挑戦。下=キタサンショウウオ観察会



活動報告会で発表する子供たちのグループ



もともと渡りをしていたタンチョウだが、いまでは人工給餌により道東には1年を通して生息する



「湿原の神」を村ぐるみで守る

北海道東部の鶴居村は、国の特別天然記念物タンチョウが生息する村である。タンチョウは、明治期に乱獲と湿原開発で激減し、絶滅かと思われたが、1924年(大正13年)に釧路湿原で十数羽が再発見され、保護活動が始まった。現在は1000羽以上に生息数が回復したが、人による給餌に依存して保たれている状態だ。

タンチョウコミュニティ(略称・タンコミ、北海道阿寒郡鶴居村)は、村人にもタンチョウにも暮らしやすい環境をつくろうと、2008年に発足したグループである。日本野鳥の会職員として現地に赴任していた音成邦仁さんが代表だ。

「冬の給餌活動は、元々はタンチョウを愛する村人によって始められました。現在は国と北海道の保護事業の一環になっていて、給餌人こそ地元の方に委嘱されていますが、餌のデントコーン(飼料用トウモロコシ)は支給されず。住民とタンチョウとのかかわりが薄れてきたため、地域密着型の団体を作り、みんなで一緒に保護活動をしていくことにしました」と、音成さんは振り返る。

発足から7年。初年度から取り組み

深めることを重点に活動している。農家向けには食害対策など、観光客向けには酪農体験などの観光プログラムを用意。子供向けには、餌作りのほか、体験活動などを展開している。「つるいっ子の体験活動推進プログラム」は、鶴居村に住む小学3年生、中学生を集め、子供自ら体験内容を考え、1年がかりで実践する活動だ。15年度のテーマは「キタサンショウウオ」「鶴居村の魚類」「釧路湿原の植物」に決まった。体験活動を通して地域の魅力を知り、自主性や積極性、協調性を育むこのプログラムは、セブン・イレブン記念財団の助成を受けておこなわれている。

「キタサンショウウオも、日本で釧路湿原にのみ生息が確認されている希少種です。さまざまな自然や生きものに興味を持ち、大切に思う気持ちを培ってもらえるといいですね。自分たちでやりたいことをやってみるプログラムですから、みんな積極的ですし、学校や年代が違う子供同士で友だちになったり、子供ならではの着眼点、発想が次々発揮されて驚かされます。鶴居村には高校がなく、子供たちは進学や就職で村外に出ていく。その前にふるさ

のが、「タンチョウのえさづくりプロジェクト」だ。人工給餌がタンチョウ保護に果たしている役割を実感し、保護にかかわるきっかけにしてみよう。デントコーンの畑おこしから種まき、収穫、粒状にほぐすまでを実際におこなう。できた餌を給餌人に手渡し、てまいてもらい、タンチョウがいつもの姿を観察する。

人工給餌の成功でタンチョウの生息数は回復したが、子育てに必要な湿原が減っていることから、冬だけでなく春から夏にかけても人里近くで暮らすタンチョウが増え、食害問題を引き起こしている。タンコミは防止対策に取り組み、畑での追い払いや、侵入防止のネット張りなどを実施している。

「湿原や森林を保全して生息環境を広げる一方、摩擦を軽減する必要があります。食害のほか、タンチョウが電線や車に衝突する事故も起きている。摩擦はあっても、鶴居村の人々にとってタンチョウが大事な存在であるのは間違いないです。ずっと身近に接し、食害に遭っても憎みきれないというのが村人の気持ちなんです」(音成さん) 現在は、対象を「子供たち」「地元農家」「観光客」に絞り、かわり

との自然を実感しておいてもらいたいし、いつかまた大人になって、帰ってこられる環境を作りたい」(音成さん) 音成さん自身は東京の出身で、子供の頃から鳥を観察するのが好きだった。鶴居村に居を定めて15年になる。「タンチョウが北海道東部にしかないように、鳥は環境変化の指標になる重要な生き物です。1000羽を超えても、種の生息数として安心できる状態ではなく、今後どのように守っていくか、保護事業は転換期を迎えている。共生の方向性を探る際、村人の理解と協力が不可欠です。タンコミの特徴は、国や自治体の事業の知見を私たちメンバーが共有して、村人への橋渡し役になっている点。僕自身が自然の中に身を置いて鳥の姿を見るのが楽しいから、保護を訴えるよりも、生きものや自然が好きになる人がもっと広がるいいなと思う。愛する気持ちが、結果的に自然を守る原動力になっていくと思います」(音成さん) タンチョウはアイヌ語で「サロルンカムイ」といい、「湿原の神」を意味する。いま、その「神」は多くの人々の手によって支えられている。タンコミの活動もその貴重な手の一つだ。



「タンチョウのえさづくりプロジェクト」の一環としておこなわれるデントコーンの種まき



無事に収穫のときを迎えたコーン



乾燥が終わったコーンは実をほぐして給餌用に



鶴居村は様々な生物を育む釧路湿原の一角



春から夏にかけてはキタキツネの子育ての時期だ

タンコミ主催「タンチョウ満喫ツアー」ではホーストレッキングも人気



セブン・イレブン
記念財団が
支援しています